

左被殻出血により運動麻痺と高次脳機能障害を呈した 40代男性の就労支援

～医療機関と就労移行支援事業所間の連携～

○石澤 匠（原宿リハビリテーション病院）

1. 報告の意義

1) プラットフォーム：メディカルオンライン

2) 検索Key word：

①脳卒中 就労支援：58件

②脳卒中 就労支援 連携：16件

③脳卒中 就労支援 連携 実践報告：0件

2. 基本情報

- 1) 性別：男性
- 2) 年齢：40歳代
- 3) 職業：ビルメンテナンス会社の営業。正社員であり、週休2日。発症後2ヶ月間は有休消化。その後発症後2年経過まで休職扱いとなり、傷病手当金が支給予定
- 4) 趣味：競馬、飲酒
- 5) 家族構成：両親と3人暮らし

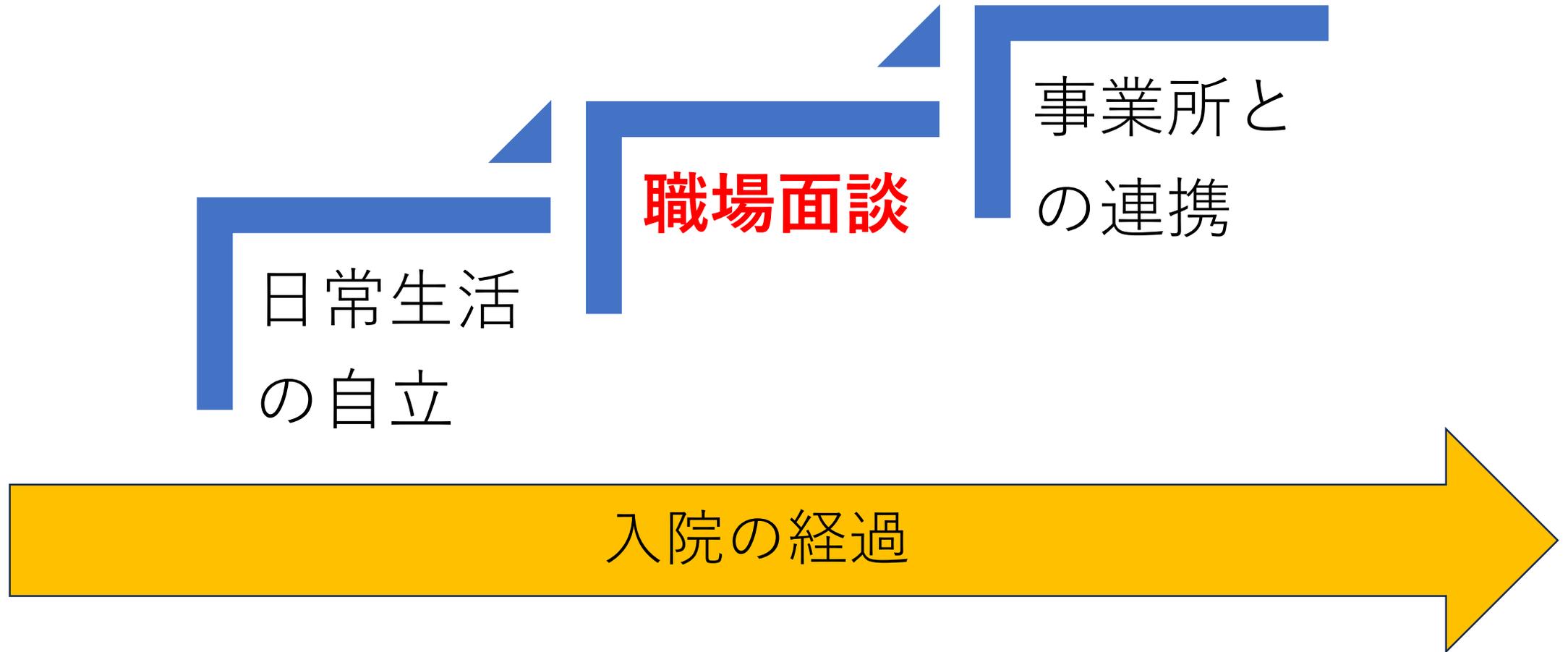
3. 医学的情報

- 1) 診断名：左被殻出血
- 2) 合併症：高血圧症
- 3) 現病歴：勤務中に、意識障害、右片麻痺を生じ緊急搬送。保存的加療により病状の改善を認め、1ヶ月後に当院へ転院、180日間のリハビリテーションを実施した。

4. 症例情報

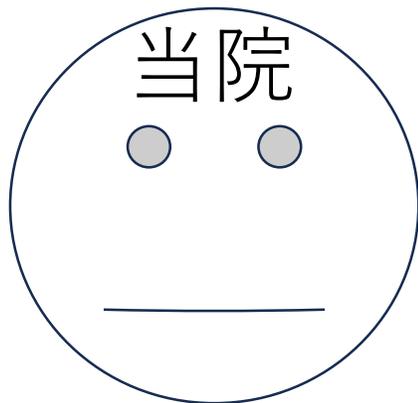
	入院時	退院時
運動麻痺	重度	中等度
高次脳機能障害	残存	残存（注意障害）
失語症	残存	残存
移動	車椅子介助	杖歩行自立
日常生活動作	介助	自立
内服管理	介助	自立

5-1. 職場面談



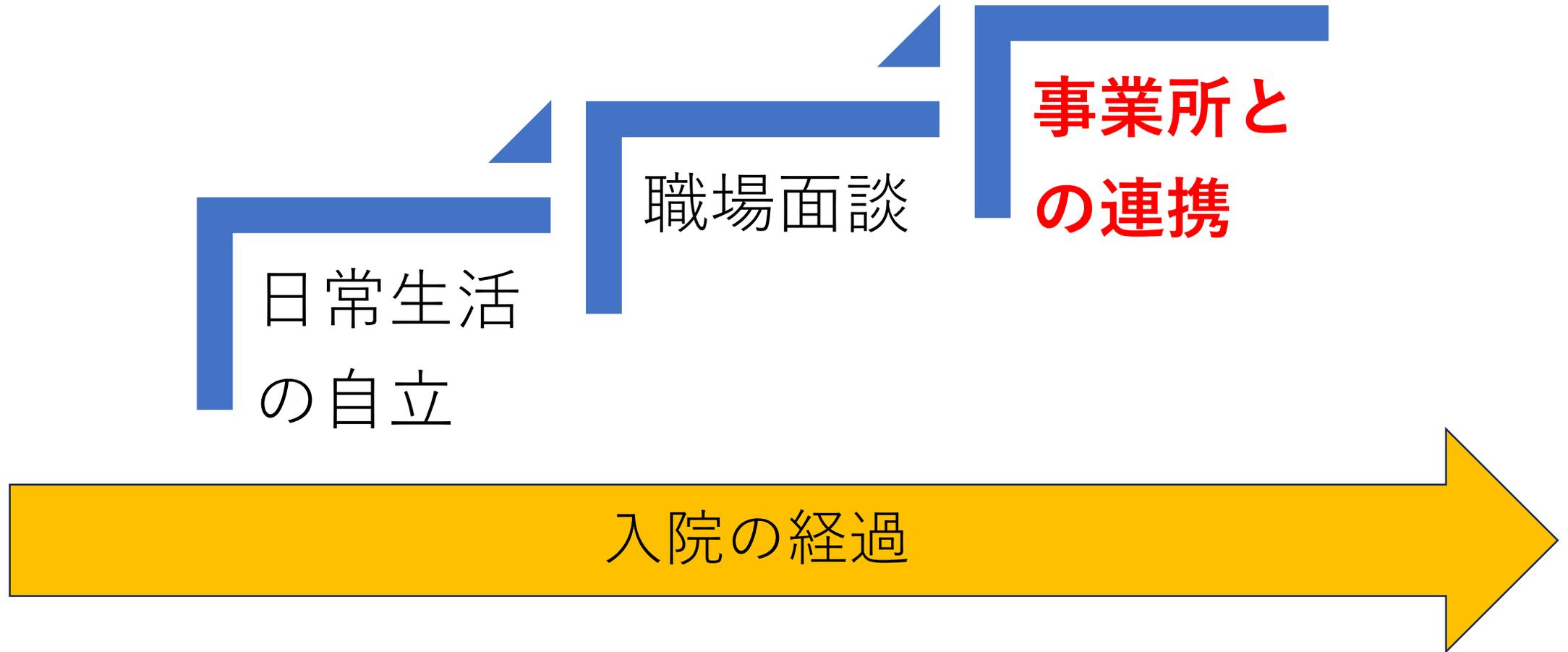
5 - 2. 職場面談

項目	会社の反応
受け入れ	良好
会社の準備	予定なし
復帰時期	未定

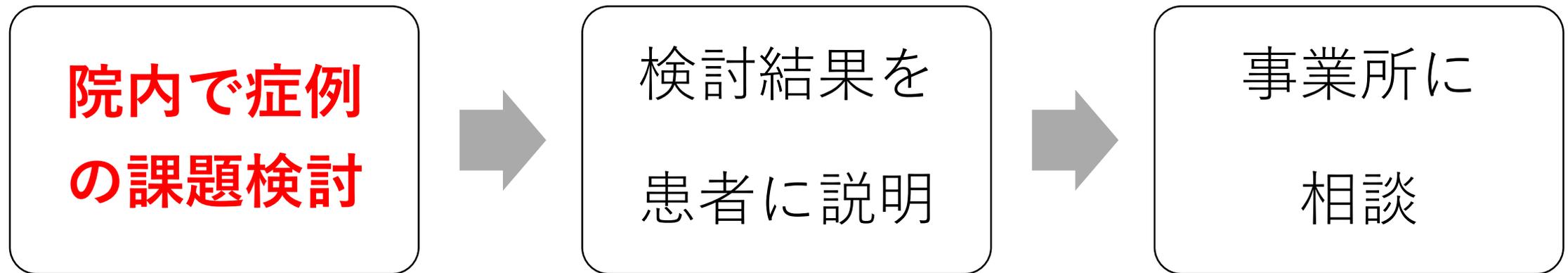


会社との関係は良好だけど
退院時点での復帰は難しい？

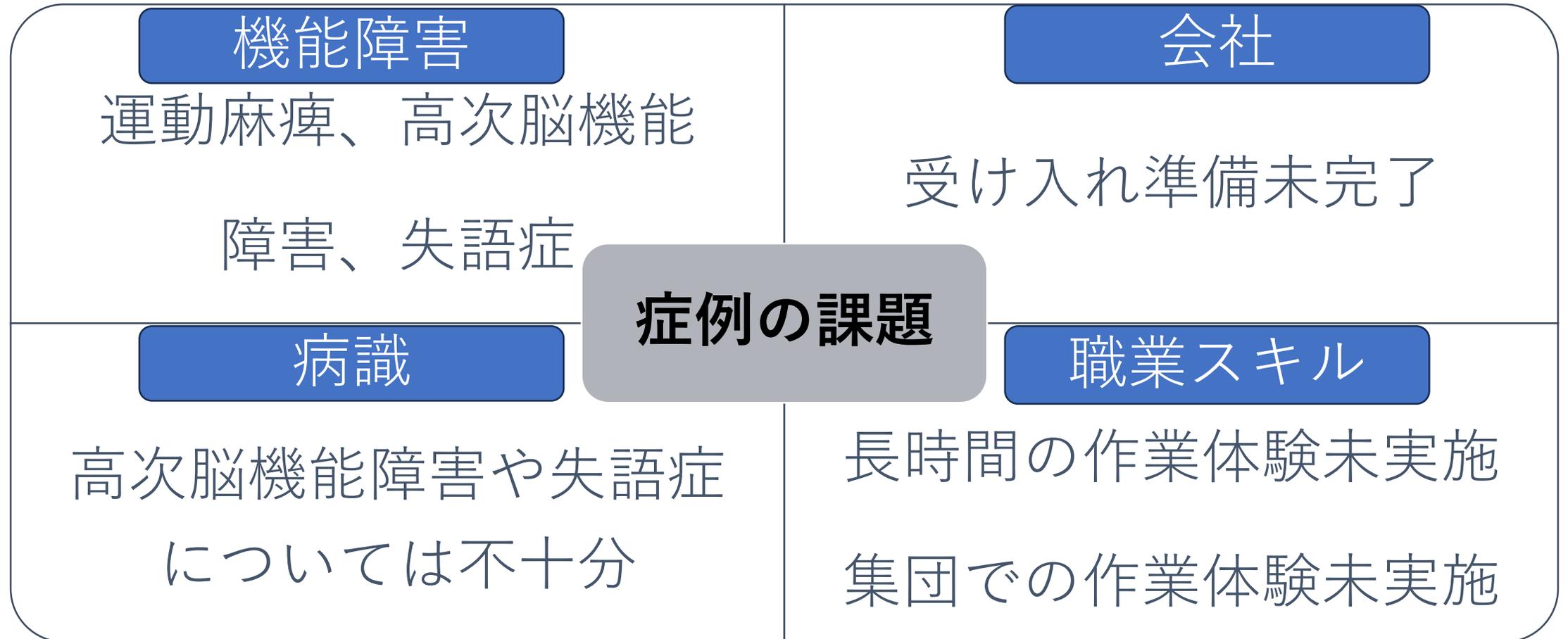
6 - 1. 事業所との連携



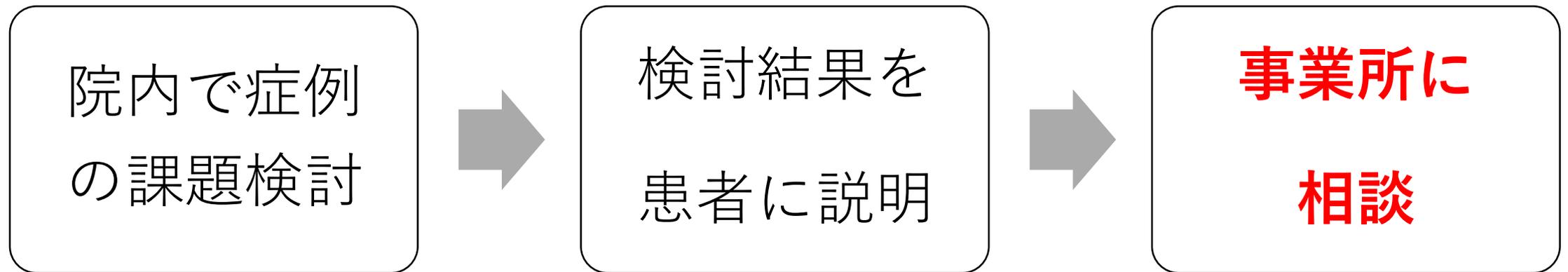
6 - 2. 事業所との連携



6-3. 事業所との連携



6-4. 事業所との連携



6-5. 事業所との連携

■連携手段：3者（当院、患者、事業所）面談

■面談内容：

- ①症例の課題
- ②高次脳機能障害の作業場面
に対する影響
- ③②に対する補完手段
- ④事業所に求めるサービス内容

3者面談により、
症例と事業所の
ミスマッチを防止

7 - 1. 追跡調査（退院後1年経過）

■事業所での活動内容：

- ①障害特性に対する説明書の作成
- ②グループワークを通じて自己認識の向上
- ③ピッキング等の軽作業を集団で役割分担しながら実施
- ④事務作業課題において、補完手段の再確認
- ⑤症例が体調を自己管理できるように記録指導

7 - 2. 追跡調査（症例の経過）



7 - 3. 追跡調査（聞き取り調査）

■患者が述べた入院中に実施して良かった点

①入院中に事業所職員と相談できた事

②自身の苦手（高次脳機能障害や失語症）に対してどう取り組むか練習を重ねた事

■事業所からの医療機関に期待する点

①患者の高次脳機能障害に対する病識向上

②業務内容を想定した訓練の実施

8. 考察

■準備：

患者だけではなく、職場の準備も必要

■目標共有：

役割明確化、目標のすり合わせが重要

■連携

高次脳機能障害のような目に見えない障害に対しては
医療と事業所の情報共有は不可欠